

多様化する旅行者ニーズに対応

支部改編で新たな展開

みらい委員会活動報告



松岡光政委員長

委員会の名称を4月から「みやげのみらい委員会」から「みやげ委員会」に変更し、「土産物を売るといふ観点だけではなく、旅行マーケットの変化に合わせた土産店の新しいコンセプトの確立で、マーケットへのさらなる浸透を目指していきたい。」

ECCの爆発的發展や、駅・空港、サビエスエリアの機能強化など、われわれを取り巻く環境が大きく変わってきている。

またインバウンドや個人旅行の増加など、旅行マーケットそのものも大きく変化している。

これは、われわれ自身が変革を求められていたがゆえの改編だった。JTBの組織改編に合わせるといふ言葉が先行してはいたけれども、新しい時代にはさまざまな力を合わせて立ち向かっていくための組織改編だったといふことを改めてお伝えしたい。

新体制づくりに向けたさまざまな取組を各支部で行ってもらった。この1年は、全国各支部の運営をスタートさせた1年だったといえなくはない。

各支部で具体的にどのような

前回、2015年の第9回アカデミーから、熊本地震の被害等を考慮した延期もあり、3年が経過している。この1、2年で、われわれを取り巻く環境は大きく変化した。JTBグループの組織改編はもうろんだが、その改

ゼロベースで事業検討

日本おみやげアカデミーグランプリ 運営委員会活動報告

支店の統合、組織改編も大きな課題となつた。支店を全国一斉に閉鎖する方針で動いてゐるが、各支店において、新体制の設立に伴つた作業の関係で、カネミチ事業を全国一斉に閉鎖する方針で動いてゐる。商品の出張については、従来の店ごとに加え、支店と支店との意見がある。北海道支店の合意が共同で



小野寺仁委員長

土産品の開発と販売を進めて、これを先行事例として、他の支部でも共同での商品開発がきかないか。また、新しい支部単位や以前の支部単位、都道府県単位で、JTBの47DMCと協業して商品開発ができぬか。各支部のみに委員会が協力も得てまいりたい。

委員会

高橋 広行 JTB 社長

あいさつ
要旨

者からすると、これらのシェアリングビジネスは脅威ではあるが、考え方、価値観は完全に市民権を得たと考えるべきだ。いかにビジネスチャンスをつまみ取るかだ。

三つ目は顧客の力の台頭。近年の流行語大賞は「カスタマ」で、これは顧客の力を台頭に

よすな手法を、大胆に取り入れていかねばならない。

◇

旅行業者も大きな変動の波に見舞われている。世界の旅行会社の取扱額を比較すると、2010年当時の勢力図は、上位がカルソン、TUI

映えだった。マーケティングにおける消費者の情報発信力が極めて大きくなっている。今後

I、アメックス、トーマスク、JTBといった、いわゆる旧来型の、皆さま方にも

連盟

変革

そこの中でマーケットになじみのあるリアルエージェンツが上位を占めていた。エクスぺディアが2番目にあるが、ほかのOTA（オンライン



連盟会員はパートナー
変革へ共にアクション

な。みのあるリアルエンジニアが、地位を占めていた。エレクトロニクスが「審判」にあるが、ほかのO.T.A（オンライントリアルエンジニア）は、まづ「囁く」を潜めていた状態だった。

こうしてクロールO.T.Aの台頭は、既存のわれわれと、また、さらに黒箱の間。こうした流れは今後も間断なく進展する。旧来型の

これが2017年になる
と、これがと様相が変わった。
上位をカスベディ、ブラ
イスフー、シートリップと
いったO.T.Aが独占してい
る。しかも、われわれの想像
を絶するような異次元のレベ
ルで飛躍的に規模を拡大して
いる。

経営改革の目的は大きく二
つ。一つは分社化によるな
散した経営資源をもつ一度集

にした事業別のシンプンな体制に変更することにした。

JTBは元々、外国人を呼び込んで外貨を獲得するために設立された、ジャパン・ツーリスト・ビューローという、いわば国策会社だった。

その対価としてフィーをいただくようなモデルだ。でもちろんなわかれの本業である旅行業もあるが、必ずしも旅行業の枠組にとらわれぬ。旅行会社以外の提案も積極的に取り組むもりだ。

その後、旧日本交通公社に改称して、旧国鉄の中心や旅行クーポンの販売を中心とした第1の創業期を経て、国内、海外のパッケージツアーを大量生産し、販売するメーカモデルを展開してきた。これが第2の創業だ。

そして現在、マーケットが旅行そのものの販売を目的としたこれまでのビジネスモデルから、旅をあぐまでもソリューションの一手段として捉え、旅行を通じて培ったこのこれまでの知や経験やネットワークを活かし、さまざまな解決策を提呈するビジネスモデルに姿態そのものを

タツチ合せて、二つの要素を掛け合わせ、お客さまの期待を超ええる価値を提供して、お客さまの成果にまで関わり、ということを目指しています。

◇

と胸を張って言うようになりたいと考えているのは、TJB旅行スタッフ・加盟店連関の各社さまも同様だ。改めて、各社さまおかれては、現実に置かれた中で、それぞ

私の形は、交流創造に目指す会社としても、最終的に目指す社会の形は、最終的に創造事業だ。JTBならではのソリュションを提供して、地球を舞台にあらゆる交流を創造して、人々の感動と共感呼び起こす。旅行という表現を使っていないが、脱旅行業を目指して、最大限の協力を使わせていただく。この場で予約お申し込み上げる。

運動 **日本** 感動と地恒

オンリーワン道
～お客様

連盟のシンクタンク **みらい委員会**

～みやげ業界の未来を見据え旅行者を魅了する地域コンテンツ開発の推進～

オンリーワン運動 **日本おみやげアカデミーグランプリ**

～お客様に感動と地域文化を伝えるみやげ創りをめざして～

人材づくり **みやげ塾**

～みやげ業は地域文化の伝達産業である～

JTB旅行スタンプ加盟店連盟

感動のそばに、いつも。

会 長	河 合 徹	(郡 上 八 幡 大 森 乳 洞 レス トロ)	副 会 長	松 岡 光 政	(知 覧 バラ イ ド)	常 務 理 事	山 野 壮 仁	(塩 玄 山 館)	常 務 理 事	仙 波 勝	(松 山 民 芸 伊 予 か す り 会)
副 会 長 (会 長 代 理) (北 海 道 支 部 長)	佐 藤 秀 樹	(上 北 大 森 川 緑 川 ゲー ドン)	副 会 長	小 野 寺 仁	(平 泉 温 泉 平 泉 レス ト ハ ウ ス)	常 務 理 事	森 徹	(焼 津 さ か な セ ン ター)	常 務 理 事	竹 井 正 彦	(大 中 茶 府 屋 中 神 茶 屋)
副 会 長 (東 北 支 部 長)	佐 藤 正 男	(磐 梯 高 原 ゴ ル ド ハ ウ ス 目 黒)	常 務 理 事	阿 野 裕 司	(昭 和 新 山 館 豊 和 番)	常 務 理 事	牧 戸 福 嗣	(伊 岩 戸 勢 屋)	常 務 理 事	菊 池 秀 一	(草 千 里 レス ト ハ ウ ス 草 千 里 レス ト ハ ウ ス)
副 会 長 (東 日 本 支 部 長)	羽 山 篤	(金 子 ・ フ ィ ッ シ ュ 谷)	常 務 理 事	鬼 川 孝 助	(田 沢 湖 群 山 田 沢 湖 共 栄 バ レ ス)	常 務 理 事	高 見 澤 佑 周	(上 戸 蘭 訪 問 上 戸 蘭 訪 問 の お け の 特 設 店)	常 務 理 事	馬 場 芳 朗	(屋 久 島 屋 久 島 観 光 セ ン ター)
副 会 長 (中 部 支 部 長)	日 下 部 彦 宏	(下 舞 台 岬 観 光 セ ン ター)	常 務 理 事	舟 山 隆	(高 野 お り か ん こ う セ ン ター)	常 務 理 事	池 端 秀 志	(加 賀 湯 泉 月)	監 事	朱 二 太	(松 島 湯 針 本 舗 松 島 湯 針 本 舗)
副 会 長 (西 日 本 支 部 長)	松 井 道 昭	(丹 松 後 一 物 産)	常 務 理 事	田 原 直 之	(小 物 産 館 深 雪 の 出 里)	常 務 理 事	上 田 両 四 郎	(京 水 順 正 お か べ 家)	監 事	寺 島 正 和	(石 炭 洗 山 泉 石 炭 洗 山 泉 の 産 品 処 理 所)
副 会 長 (九 州 支 部 長)	木 之 元 英 明	(由 布 院 温 泉 ゆ っ ふ い ん 果 子 工 房 五 衛 門)	常 務 理 事	小 林 信 彦	(樺 太 敷 崎 こ ば や し)	常 務 理 事	清 水 宗 和	(奈 良 市 会 館 三 笠 観 光 会 館)	常 務 理 事	菊 地 力	(JTB スー ペー ア & フ ォ ト セ ン ター) 所 長
副 会 長 (沖 縄 支 部 長)	大 城 宗 直	(玉 城 (南 城 市) お き な ば ウ ォー ル ド)	常 務 理 事	須 藤 文 夫	(中 禅 寺 観 光 セ ン ター 中 禅 寺 観 光 セ ン ター)	常 務 理 事	石 倉 忠 明	(道 成 寺 成 寺 道 成 寺 の 聖 堂 食 事 処 ゐ ん ち ん)	常 務 理 事	原 子 明 宏	(JTB スー ペー ア & フ ォ ト セ ン ター) 所 長